

2010 年度活動報告

(1) 情報発信事業

当会の目的は、日常的な情報交換を通して多目的な交流を図り、地域活動を活性化させ、学園都市にふさわしい文化の創造とまちづくりに寄与することであり、下記の情報交換を行った。

① フレスター（交流ニュース）の発行

毎月一回交流ニュース「フレスター」を発行した（12回）。今年度は「NPO公益活動支援事業」の助成を受けて「障害者施設と地域の架け橋交流事業」に取り組んだ関係で交流ニュース「フレスター」の内容もそれに沿ったものや西鉄電車赤煉瓦高架橋解体・折尾駅舎の保存活用に関する記事が多かった。

② ホームページ

フレスターの発行に合わせて情報更新ができた。

③ 世話人会のメーリングリスト

世話人会の情報交換を、さくらインターネットのメーリングリストで行った。

(2) ゆめ広場部会

「ゆめ広場」の閉鎖について

2006年4月に開設した「ゆめ広場」を8月末に閉鎖した。

「ゆめ広場」は、折尾地域における交流と休憩の広場として4年4カ月にわたって、一カ月平均約2,600名、延べ約144,000名の方々に利用されてきた。

「ゆめ広場」を閉鎖することは後ろ髪を引かれる思いだったが、多くの方々に出逢え、色々なことを学んだことが、当会の今後の活動の大きな原動力になった。

① 運営

「ゆめ広場」の管理運営に必要なボランティアを定常的に確保することができず、広場当番が誰もいない時間帯が長くなってきた。結果として、清掃・整理整頓が行きとどかないこともあり、また一部利用者のマナー違反に適切に対応することが出来ないなどの問題が指摘されるに至り、「ゆめ広場」を閉鎖せざるを得ないとの判断に達した。

また「ゆめ広場」を閉鎖するに当たり、北九州市当局や折尾自治区会連合会、JRなどに何らかの形で交流広場を駅周辺に設置して頂くよう要請したが、いずれからも前向きな回答は得られなかった。

② リサイクルバザー

「ゆめ広場」の運営に必要な財源確保のために、会員のみならず地域住民や諸団体から数多くの品物を提供いただき、「リサイクルバザー」を2年2カ月運営し「ゆめ広場」の存続に多大な貢献ができた。（2010年4月～2010年8月の販売額：94,356円）

③ 「ゆめ広場」さよなら会

「ゆめ広場」のお別れ会を9月18日に開催した。30名の参加があり「ゆめ広場」開設時の苦労話や運営にあたってのそれぞれの思い出話に花を咲かせると共に、これからの活動へのエールをもらい、更なるステップに向けて頑張ろうと、心を新たにした。

※「ゆめ広場」への長い間の、ご愛顧並びにご協力を、誠に感謝いたします。
ありがとうございました。

(3) 交流事業

① クリスマス会

恒例事業となったクリスマス会を12月7日に開催し、20名を超える参加者で大いに盛り上がった。障害者施設の方も参加され交流の輪が広がった。

② 茶話会

茶話会を定例化して開催した。

(4) 人にやさしい街づくり事業

折尾のまちづくり全般（ハード・ソフトの両面）について、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた調査活動や提案活動などを積極的に行う。

西鉄電車赤煉瓦高架橋あとにできる「市民トイレ」の便器や荷物置きなど、多くの方々を使い勝手のいいような形式になるように「まちねっと」と共同で要望した。「まちねっと」に参加した。

(5) 折尾歴史・文化事業

折尾駅周辺には、数多くの歴史遺産があるが、総合整備事業により取壊されている。

西鉄電車赤煉瓦高架橋の保存活用活動で北九州市に陳情や署名活動を実施。

赤煉瓦高架橋は取壊されてしまったが、取壊した赤煉瓦を捨てずに保管し、赤煉瓦高架橋の存在・文化・歴史を、みなさんに知らせるために活かす申し入れは実現した。

(6) 他団体との協働事業

様々な活動に参加すると共に、交流には欠かせないネットワークの中間支援としての役割も果たすことができた。

① フレスターコラボ 2010

10月31日当会が当初から開催している他団体との協働イベント「フレスターコラボ」を、地域通貨オリオン委員会の「ひとつぼてん」として、九州女子大学・大学祭で開催した。今年度は、きらきら助成金事業の関係で授産品バザーを実施した。
障害者施設や地域団体などと交流を深めることができた。

② 地域通貨オリオン委員会

地域通貨オリオンの「してほしいこと」と「できること」をつなげる中間支援として当会のネットワークを活用したが、今年度は要望が少なかった。

③ おりお未来21協議会

折尾地区総合整備事業を機会に、折尾のまちづくりに取り組んでいる様々な団体が北九州市とパートナーシップのもとに新しい折尾のまちを創りあげるために設立された会。

◆運営委員会…副代表が参加

◆折尾駅舎保全・活用事業化検討会…副代表が参加

- ◆商業にぎわい検討会・・・副代表が参加
- ◆折尾駅周辺景観デザイン会議・・・副代表が参加
- ◆灯明イベント・・・広報活動・作成・片づけなどに参加

④ 北九州市福祉のまちづくりネットワーク（まちネット）

誰もが住みよいまちづくりのための意見交換会・現地調査・学習・検討などを関係行政・企業・障害当事者団体・専門家で行った。

8月21日「折尾地区のまちづくり・出前講座」を開催（八幡西生涯学習センター折尾分館）

- ◆定例会（隔月第3水曜日）
- ◆検討会点検活動

黒崎再開発（年金病院跡地整備）、新障害者スポーツセンターの検討、道路点検などを行い、北九州市や関係機関と協働で検討会を行う。

2010年4月1日～2011年3月31日（計6回）

折尾駅東口駅前広場の仮トイレ設置について多目的トイレや、折尾地域の実情に合わせた洋式便器の設置など改善を申し入れ実現した。

- ◆学習活動

バリアフリー新法や折尾再開発の学習会を開催する。

⑤ 八幡西ボランティア連絡協議会

八幡西区を中心に活動するボランティアグループと、横の連絡を取り合いながら活動を活性化させようとする協議会に参加し情報交換を行う。

- ◆定例会（毎月第3火曜日）

⑥ 折尾駅舎・堀川運河を保存する会

折尾駅舎保存の構成団体として参加し、歴史を継承したまちづくりの大切さなどを提案すると共に折尾駅舎の保存を呼びかけた。

⑦ 歴史遺産「北九州市レトロ」を創る会

北九州市の歴史遺産を活かした『北九州市レトロ』を創り、北九州市を、日本を代表する観光地にしようと活動をしている。そのために街をきれいにしようと「HAPPYゴミひろい」を実施しているので一緒にゴミひろいを行った。

⑧ 北九州市民サミット

2010年4月11日「つながる市民活動～ボランティアだよ全員集合！」に参加した。

特に今年度は、WAMの助成金事業で実施した「架け橋ガイドブック」掲載の施設情報をパネル展示すると共に冊子の閲覧や配布を行った。

「ボランティア相談コーナー」で、1日相談委員として参加した。様々な方が訪れ、ボランティアへの関心が高いことが実感できた。

⑨ 男女子育て環境改善研究所

12月21日の「集まれ！『イクメン』予備軍～学生のためのライフプランナーセミナー～」のシンポジウム開催のお手伝いをした。（九州共立大学にて）

⑩ ライブイベント「Satellite stage(サテライトステージ)」

9月5日、折尾駅北側広場で「ライブイベント」が開催され、休憩所の提供などの協力をすると共に、授産品バザーを出店した。「フリーボランティアわたぼうしの会」の応援もあり、売上は33,000円あった。

⑪ 東日本大震災の支援

東日本大震災は、かつてない規模の被害状況であり多くの方々の支援が必要である。他団体からの協力要請に応じて、当会のネットワークを使って協力する。

「エスク」からの要望で、遺体に着せる着物を集め4月17日に50着を被災地に送った。

(7) 助成金事業

昨年度、「独立行政法人福祉医療機構（WAM）」の助成金事業で、障害者の就労支援と社会参加を促進するために「安心して、みんなで街に出かけよう！」という事業を実施した。

その結果、70%を超える施設で、ボランティアを求めていることがわかった。

これらの課題を解決するために、今年度は「北九州市総務市民局NPO公益活動支援事業（きらきら助成金）」の助成を受けて「障害者施設と地域の架け橋」事業で「障害者の就労支援や社会参加の促進・ボランティア団体と企業の社会貢献」に取り組んだ。

「濤懸はまゆう太鼓」の協力をえて実行委員会方式(障害者施設と地域の架け橋交流事業)で実施した。

1. 事業の趣旨；2009年度に実施した「安心して、みんなで街に出かけよう！」事業で見えてきた課題に取り組むことで障害者施設と地域の交流活動を継続・発展させた。
2. 事業の内容
 - ① ゆめ広場などで授産品バザーを再開催し、広くPRした。
 - ② 障害者施設とボランティア団体・個人による勉強会と意見交換会を開催し、ボランティアの養成に取り組みながら、障害者施設と地域の交流についての要望の具体化を図った。また日常的な交流と情報交換のシステムについて検討した。
 - ③ 障害者施設からの様々な支援要請に地域社会がどのように応えられるかを明らかにするために、諸団体、企業、学校などを対象にアンケート調査を実施し、その結果を冊子、ホームページなどで広く発信した。

(8) 世話人会の運営

本会の世話人会は概ね月1回の頻度で開催してきた。世話人の出席状況は毎回5～6人程度であった。欠席者が多いのは各人の多忙が主たる原因であり、新しい世話人を補充することで人材不足を克服していく必要がある。

昨年度前半の主要な議題は「ゆめ広場」と「リサイクルバザー」の存続問題であったが、秋以降の議題は西鉄電車赤煉瓦高架橋・折尾駅舎の保存問題が中心的テーマとなった。

なお、月1回の茶話会と12月のクリスマス会を「ゆめ広場」閉鎖後は「ドルフィン」を借りて開催し、会員および協力者との交流を深めるために一定の役割を果たしてきた。